

## 令和元年度 綾部市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和元年10月31日(木)  
開会 15時 閉会 16時40分
- 2 会 場 綾部市役所 まちづくりセンター第1会議室
- 3 出席者 綾部市長 山崎 善也  
綾部市教育委員会  
教育長 足立 雅和  
委 員 小南 直美  
委 員 波多野 芳雄  
委 員 樋口 高夫  
委 員 大島 友紀子  
(事務局関係)  
市長公室長 白波瀬 清孝  
企画総務部長 岩本 正信  
財務担当部長 吉田 清人  
福祉保健部長 大石 浩明  
農林商工部長 上原 季司  
教育部長 小林 治  
教育部参事 小林 直子  
学校教育課長 村上 哲也  
社会教育課長 立藤 江理  
学校教育課長補佐(指導主事) 森本 重則  
学校教育課課長補佐 斉藤 さおり  
学校教育課学務指導担当長 松下 修
- 4 協議事項 新学習指導要領におけるキャリア教育の充実について  
・今後、どのような子どもを育成していくことが必要か。
- 5 議事の概要
  - 開 会
  - 綾部市長挨拶

○ 協議事項

<議長：綾部市長>

「新学習指導要領におけるキャリア教育の充実について」について、事務局から説明をお願いします。

(プレゼンテーション：学校教育課 森本指導主事)

<議長：綾部市長>

ただいまの事務局の説明につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

<樋口委員>

子どもたちに系統的にキャリア教育をして必要な資質・能力を高めていき、将来に渡る生きる力をつけてやりたいということはよく分かりました。

実際にキャリア教育をやるとなると新学習指導要領のもとで、各学校現場において、一致した指導體制で進めていく必要があるのではないかと思います。しかし、キャリア教育の目標というのは数値目標では出しにくいものですから、子どもたちが力をつけていくために、指導する側が小学校、中学校がどれだけ統一して指導していくかということが大きな課題ではないかと思いました。

今後どのように指導體制を確立していくのかお考えをお聞かせください。

<小林部長>

各中学校ブロックにおいて、現在、全ての教育課程をキャリア教育の視点で捉えなおそうとしております。取り組んでいるものを整理していますので、それを各教職員と共通確認しながら、また、教育委員会からも先ほどのプレゼンテーションの内容を学校へ伝えながら作業を積み重ねていきたいと考えています。

すぐには浸透しないと思いますので、令和2年、令和3年の2年をかけて各学校へ指導していきたいと考えています。

<教育長>

これまで教育委員会がしてきた全国学力学習・学習状況調査や京都府の学力診断テストで良い点を取る、暴力事象をなくする、不登校の数を減らすといった明確なわかりやすいベクトルで同じ方向に向かって進んできましたが、このキャリア教育はすごく難しいです。でも、このレベルまで来たからこれに挑めるのではないかと考えています。各中学校ブロックのみんなで作ったらよいと思います。抽象的な難しいことを具現化するためにどうしていけばよいのかということそれぞれの先生が考える、考えて考えて、真面目に考えて、そして、こういう方向ではないかとみんなが共通認識ができるところまで練りあわないといけないと考えます。その考える過程に非常に意味があると考えます。

<樋口委員>

わかりました。

<波多野委員>

学力に対する考え方を変えていかなければならないということが伝わってきました。私が学生の頃は試験で点をならないといけないという時代であったと思いますが、今の保護者も昔とそう変わってなくて「テストで良い点を取らないといけない、良い点を取ってほしい」という思いは結構あると思います。

私たちの頃は結論だけ覚えておけばよかったです。今後は、その結論をどう導き出すのかというのが学力の大きな中身なのだという学力観が変わっていくことを地域の人や保護者に説明していかないといけないと思います。それを理解してもらって、「学校ではこういう力をつけようとしてくれているんだ。では、家庭でもこうしよう。」というように広がってくればいいなと思います。

<小南委員>

先ほどのプレゼンテーションで、新学習指導要領で求める資質・能力が具体的に文部科学省から示されていなくて、綾部市や各校長先生がその資質・能力を考えないといけないと理解しました。現在、綾部市として、具体的に資質・能力の内容としてのキーワードは何かあるのでしょうか。

<森本指導主事>

京都府の振興プランで出されたものもありますし、綾部で暮らす子どもですので、ふるさとあやべを思っしてほしいですので、それらを踏まえて、これまでの積み上げの中で整理をしたいと考えています。

綾部市においても明確にして、それに向かって各ブロックで実践してもらい、その実態を見ながら資質・能力を明確にして、それを学校教育目標とリンクさせながらみんなが意識していくような教育をしたいと考えます。

<小南委員>

ありがとうございます。

<議長：綾部市長>

中教審からはキャリア教育について、これ以上の咀嚼したものはないのですか。

<森本指導主事>

この3つの柱を出しているのとあとは各校の実態に合わせて具体的にいうことになっています。キャリア教育について、昔は4つの領域8つの能力とはっきりした表を作りました。でも、それをすると地域の実態も子どもの実態も全然違うのに、全部それをコピーして教育計画を作り、実践していくというのは意味がないではないと言われており、各校、各ブロックの実態に応じて作っていくというように言われています。ですので、綾部は綾部なりあるいは綾中ブロックは綾中ブロックなりの計画を大変ですが、作っていく作業をすることで実

のあるものになっていくと考えます。

<小南委員>

もう1点ですが、キャリア教育は学校の中で終わるものではなくて、社会とつながらないといけないので、教育委員会の中の事業だけでは付けきれない力がたくさんあると思います。

綾部市では教育委員会以外の課と連携している事業はどれくらいあるのでしょうか。

<立藤課長>

子どもとの関わりは各担当課で持っているところがあります。社会教育課はもちろんですが、子どもへの作品の募集やチラシを配布してイベントや事業のお知らせをしています。

<小南委員>

市長部局でもあるのですか。

<立藤課長>

商工労政課や環境保全課などさまざまな部署で、子どもたちへの事業を行っています。

<議長：綾部市長>

私が思いつくだけでも、ロボットコンテストで京都工芸繊維大学や鉄工組合とのコラボレーションした事業がありましたし、環境関係でクリーンセンターへ行ったり川の水生生物の調査をしたりしています。

<大石部長>

キャリア教育ということではないですが、将来子どもを育てる観点で赤ちゃんと接する機会があります。

<教育長>

職業体験で保育園や病院へ行かせていただいて体験をするということはあるのですが、あくまで職業体験という枠を出ませんので、もう少し広がりを持たせたいと考えます。例えば、あやバス絵画展は絵を描いてくださいという依頼が来るのですが、「なぜ今あやバスが走っているのか」、「あやバスが市民にとってどれだけ大切な交通手段であるのか」という深いところまで子どもたちに教えてから、絵を描かせればよいのですが、実際にはそれだけの授業時間数がないので、なかなか難しいです。

<大島委員>

学校教育に携わっておられる方や学校現場では、このようにキャリア教育という大きな目標に向かってどんどん進んでいかれますが、そうすると保護者がすっぱりと置いてけぼりになってしまうのではないかと思いました。

実際に子育てしていると生活で手一杯、日々過ごしていくので手一杯、子ども

が学校に嫌がらずに、ともかく行ってくれたらそれで満足というように感じているのが多くの母親たちだと思いますので、できればこういった内容で「今、教育はこのように進んでいるんだよ」ということを保護者が学べる機会や、綾部市についても学び直しができるような機会があればよいと感じました。

<議長：綾部市長>

自分たちが受けてきた教育を振り返りながら、良い成績を取って、偏差値をあげて、良い学校に入って、良い会社に入ってというのが幸せの形のように、親も教師も考えていた時代であったと思います。高度経済成長で右肩上がりの時代であったこともあり、それを否定するものではありませんが、ただそのような考え方だけで幸せな生き方ができるほど単純な世の中ではなくなってきています。百人いたら百通りの生き方があり、それを自分でどうやって見つけて実現していくかということが一番大事であるということを経験教育の考え方の方針として教育長と話してきた10年でした。

ただ、私が就任した当時はまだ基礎学力や不登校の問題がありましたので、この考え方を実践できる段階ではありませんでした。それらの課題を解決して、ようやく今このキャリア教育に取り組める時期に来たなと感じます。

なぜ私がこのキャリア教育を考えるようになったかと言いますと、私の子どもが受験の際に、塾で「解ける問題と解けない問題を見極めて、解けない問題は捨てなさい」と言われていました。受験のテクニックの面からいうとしかたがないとは思いましたが、果たしてこれでいいのか、将来困難なことにぶつかった時に目をつぶったり、逃げたりしてしまうのではないか、そんな人間ばかりになったら日本の将来はどうなるのかと危機感を覚えました。ほどなくして、実際にサラリーマン生活のなかで、一般的に有名校と言われる学校を卒業して入社した若い社員にそういうことが起きたのです。優等生で人に叱られたこともなく、挫折も知らず、そして社会人になって、厳しい指導を受けることでそれを挫折と感じた途端、次の日から出社できなくなってしまったり、いろんな問題を生じたりしました。偏差値教育との因果関係は検証できていませんが、私が漠然と不安に思ってきたことが現実となって起きてきたという反省の中で、今、教育長と一緒に、教育の一定の方針に関われる立場になったら、これまでの偏差値教育偏重の教育とは一線を画した教育をやらないといけないとの思いを巡らすようになりました。

先ほどのプレゼンテーションで分かりやすく説明いただいた内容から、やはりそうだったのか、そういうタイミングがきたのだなと思いを強くしています。従いまして、このキャリア教育について総論としてはぜひ進めたいものです。ただ、各論について、どのように目線合わせをしてやっていくのかはなかなか難しいことで、覚悟を持って、時間をかけてやっていかなければならないと思います。

綾部市では、ふるさと教育、キャリア教育、国際理解教育を並列で取り組んできましたが、先ほどの話では、キャリア教育が従来の職業訓練的なものや将来自分がどういう職業に就くかという問題から離れて、更に拡大していく感じですので、定義のし直しや言葉の整理も必要になってくるかと思います。

また、今までの価値観とは大きく変換することになるので、子どもだけでなく保護者や綾部市の人口47%以上を占める60歳以上の祖父母世代への啓発も必要であると思います。

繰り返しになりますが、進むべき方向は間違っていないと思いますので、是非これをそれぞれの立場なり場所で進めていきたいと思います。

中教審が地方の実態に合わせてというのはいいですが、大きなOSを変えないことにはアプリケーションが動きません。そのOSの一つが受験制度だと思うので、中教審がキャリア教育を進めたいのであれば、受験制度にメスを入れないとうまく動かないように考えます。私も機会を見て各方面へ話をしていきたいと思っています。

本日は、キャリア教育を中心に議論をいただきましたが、せっかくの機会ですので何かご意見等ありましたらよろしくお願いします。

<足立教育長>

本年度に入って一番ショックだったのが、生まれる子どもが大変少ないと聞いたことです。これでは周辺校ではまた学校統合の可能性が出てきます。綾部市の小学校は地域に愛されて、皆さんが子どもを見守ってくれます。学校はコミュニティの場であり、灯台のような場であるのにそれをまた統合しなければならない。そもそもそれが嫌で小中一貫校を作っても地域に学校を残してきたのがこれまでの取組です。綾部で生まれる子どもが少ないのなら、総力を挙げて定住促進に力を入れていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

<樋口委員>

綾部の出生数は減少していく可能性がありますが、この町の活力が少しでも維持できるようにさまざまな施策を講じて、できるだけのことに取り組んでいただきたいと思います。

<山崎市長>

人口減少社会を前提としたまちづくりをインフラの規模も含めてしていかなければならないです。町を構成する一人ひとりの資質を高めていく必要がありますので、今回議論したキャリア教育はまさに意味があると考えます。

以上で総合教育会議を終了したいと思います。

- 閉 会
- 教育長挨拶